

～がんばる船高生～ **ATTENTION!**

第56回 渡辺晴香さん「きっと全てが、一番になる」

第104回全国高校野球選手権大会のキャッチフレーズコンクールで優秀賞を受賞した渡辺晴香さん(3年・船引中)に話を聞きました。このコンクールは甲子園大会のポスター、テレビコマーシャル、その他、制作物など甲子園大会関係に共通で使用されるキャッチフレーズを全国の高校生から募集するものです。渡辺さんが作った「きっと全てが、一番になる」というキャッチフレーズは全国で4人の優秀賞に輝きました。



— 応募のきっかけは何ですか？

渡辺さん 現代文の授業の一環として学年全体で取り組み、応募しました。

— どのように作品を作ったのですか？

渡辺さん 授業担当の先生が歴代のキャッチフレーズをまとめてプリントを作ってくださいだったので、それを参考にして8つ作り、いちばんよいと思ったものを提出しました。今年度は甲子園大会を開催することができましたが、昨年度はコロナ禍で甲子園大会が開催されませんでした。そのため、練習が制限され、試合や大会ができずにいる高校球児の気持ちを表す作品にできないかと考えました。大会で最後まで勝ち続けて優勝できるのは1校だけです。しかし、野球には勝敗にかかわらず夢中になれる魅力があると感じています。甲子園を目指して一生懸命に練習に取り組んでいる野球部員の姿を見て、野球に対する思いや熱意という点では全ての選手が一番になれると感じました。休み時間に友達と話していて思い付き、割とすぐに思い浮かんだ感じです。

— 受賞を聞いたときの気持ちはどうでしたか？

渡辺さん 全国から7000点近い応募があり、グランプリに次ぐ優秀賞と聞いても実感がわきませんでした。先に、最終選考に残ったという連絡があったときも自信がなかったので驚きました。今はとてもうれしいです。友達にも喜ばれ、すごいねと言われたときも本当にうれしく感じました。

— 今後も制作などの抱負はありますか？

渡辺さん キャッチフレーズとしては交通安全の標語に応募したことがあるくらいだったので、他にも挑戦してみたいと思います。もともと小説を中心に読書が好きで、国語も好きな教科のひとつです。これからも読書をして、言葉についてもっとたくさん知り、さまざまな言葉に触れていきたいと考えています。

◆次のステージに向けて羽ばたく

第72回卒業証書授与式が3月1日に行われ、99人の卒業生が次のステージに向けて巣立っていきました。卒業生を代表して卒業証書を受け取ったのは石井優希さん(大越中 写真)です。



新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から在校生は教室でオンラインによる参加となりました。在校生代表として菅野里美さん(2年 岩代中)による送辞の後、生徒会長を務めた和泉華冬さん(船引中)が、「これからの人生には、きっと大きな壁が立ちだかることでしょう。それでも、私たちは必ずそれを乗り越えてみせます」と、力強く答辞を述べました。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp



野球れんが



Hilary Stanovic
ヒラリー・スタノビックさん
(アメリカ合衆国
カリフォルニア州出身)
田村市に来て3年目

あなたの一番好きなスポーツ観戦は何ですか。私は熱狂的なスポーツファンではありませんが、私の家族は野球が好きです。野球は日本でも人気のあるスポーツですが、アメリカ国内には至る所にメジャー・リーグやマイナー・リーグのいろいろなチームがたくさんあります。私は日本で「琉球ブルーオーシャンズ」や「広島カープ」など興味深いチーム名を見つけました。その中で特に注目したチームは「読売ジャイアンツ」です。なぜなら私の家族が住む地域にあるお気に入りのチーム「サンフランシスコ・ジャイアンツ」と同じ名称で、同じチームカラー(黒とオレンジ)だからです。

私の家族は1958年からジャイアンツファンです。アメリカのジャイアンツは1883年に「ニューヨーク・ジャイアンツ」(最初は「ニューヨーク・ゴッサムズ」という名称で、1885年にジャイアンツに変更)として始まり、1958年にサンフランシスコ市に買収されて移動しました。私の家族はジャイアンツがサンフランシスコ市に移って来た時に、祖父の代からジャイアンツファンになりました。父は子供の頃からジャイアンツの試合を観戦し、私も幼い時に家族と一緒にジャイアンツのホームゲームを観戦しました。



ある年の4月、家族でジャイアンツのホームスタジアムのAT&Tパークに行きました。その日は試合の観戦ではなくチームのプロモーション・イベントのため、れんがを購入し、それにメッセージを書くことができました。父はれんがを1つ購入して、「スタノビック家...1958年からジャイアンツファン」とそれに記しました。大勢のファンが書いたれんがの中に自分の家族のれんががあるのを見ることができたのは素敵な体験でした。それは、野球の「Random」(大規模なファンコミュニティ)が人々をどのようにして強く結びつけることができるのか教えてくれました。早く日本でも野球の試合、読売ジャイアンツの試合を見に行くことができるようになればと願っています。

広告欄 Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ...総務部 総務課 (☎0247-81-2117) へ